

消えゆく運命の専門ジャンル㊦ 間に合って良かった～ & 悲しい～(涙)

ニヤースと申します。定年まであと数年のジジイエンジニアです。二回目の転職先の会社で推奨している QC 検定の 1 級を取得したのち、弟が建設部門の技術士であったということもありまして、自分も技術士の資格を目指してみようと決心しました。

<はじめに>

スキヤキ塾の APEC 先生をはじめ、口頭模擬試験で大変お世話になりました諸先生方の感謝と恩返しの気持ちで、合格体験記を書かせて戴こうと筆を執りました。経営工学部門の数理・情報は、超マイナーな専門ですので、あまり参考にならないのではと心苦しい点もございますが、ご容赦願います。

<受験記録>

2 次試験は、2 回目の挑戦でした。日本技術士会主催の 1 次試験合格祝賀会で知り合いになった I 様とメールでやり取りさせて戴き、お互いに励まし合ってきましたが、その方は、一発合格で私は悔し涙を流しました。失敗した原因を分析した結果は、以下の通りです。

- ①圧倒的に知識不足であった
- ②論文にストーリー性をもたすことができていなかった
- ③文章量の配分が分かっていなかった
- ④トレンドとなるキーワード、予想問題が適切でなかった
- ⑤何が何でも合格してやるという気構えがなかった

要するに、勉強不足、努力が足りませんでした。

一発合格した I 様からトレンドとなるキーワードを教えて戴き、それが見事に的中したのは、後述します。

<択一对策>

過去問を中心に、徹底的に繰り返し問題を解きました。どんなに疲れていても、毎日 30 分は復習しました。マークシートである 1 次試験の専門も復習しました。1 年目は、択一を合格しないことには、論文を読んでももらえないという恐怖から過剰すぎるほど力を入れましたが、2 年目は、記述に重点を置き、60%取れればいいという気持ちで勉強しました。

択一の結果は、以下の通りです。

1 年目 : 14/15 = 93% 2 年目 : 11/15 = 73%

<記述対策>

Ⅱ-1 の知識論文は、ゼロか 60%以上の評価となってしまいます。うろ覚えでは合格点はもらえません。私は、ファイルの左側ページにワープロで作成した論文を、右側に600字詰め試験原稿用紙を用意し、それを一對のテーマとして手書きの訓練をしました。論文数としては、50本くらい作りましたが、十分だったかどうかは分かりません。

Ⅱ-2 の応用論文は、2枚もので、必ず手順と留意事項を問われるものですから、文章量の配分は、過去問や予想問題を立てて訓練しました。これもワープロで作成した論文を手書きで覚えていくような練習をしました。私の場合は、できるだけ図や表を取り入れるようにしました。それにより、文章量に対するプレッシャーが軽減できたかと思えます。

Ⅲの課題解決論文は、見出し6項目を作って文章を埋めていく形式をとりました。

1.はじめに、2.基本的な手順、3.重要と考える項目、4.技術的課題と提案、5.もたらす効果と潜むリスク、6.おわりに の見出しについて、3枚ページに何をどのくらいの文章量で配分するか、どのような内容を記載するか、メモを取ってから論文を書きだす訓練をしました。これも過去問と自ら予想問題を立てて練習しました。

応用、課題解決論文をまとめて、40本くらい作りましたが、十分だったかどうか分かりません。

<筆記模擬試験>

どこでもいいので、必ず受けた方が良くと思います。本番さながらの緊張感を体験できます。私は、1年目から2年目へと成長を感じることができました。また、課題解決論文は合格点を戴き、励みと自信につながりました。模擬試験の模範解答も大変参考になりました。記述で選択しなかった設問も後日論文として蓄積していきました。

<勉強法>

1年目は、大手スクールの通信教育講座を受講し、2年目は、大手スクールのセミナーのテキストだけを購入して、ほぼ独学で勉強しました。平日は択一を、土日は記述問題を中心に勉強しました。図書館、喫茶店、自宅と気分次第で場所を変えて論文の作成と手書きの訓練を行いました。また、やや大きめの単語カードも使い、キーワードの暗記もしました。キーワードとその周辺技術のネタは、ネット情報がメインで、辞典なるものも高価でしたが1冊購入して学習しました。その他に、論文の音読やスマホで録音した論文を聞いたりして、脳、目、口、耳、手に文章をしみ込ませていきました。

<筆記試験本番>

Ⅱ-1 の知識問題は、4問の設問中3問は守備範囲に入っておりました。あえて選択

が集中しそうな代表的手法の問題は高得点を取るのが難しいと判断し、今が旬のキーワードである設問を選択しました。2問とも最後の行まで書き切りました。

Ⅱ-2は、正直、まったくの想定外の問題で一瞬頭の中が真っ白になってしまいました。しかし、二択の設問の内、一つの問題文を落ち着いてじっくりと読み、書き出しの糸口を探り、適用できる手法がひらめきました。あとは訓練通りの進め方で升目いっぱいまで埋めることができました。

Ⅲは、1次試験合格祝賀会で知り合いになったI様のアドバイスもあり、まさにビンゴという感じでした。但し、知識論文用の情報から、課題解決論文用に構成する工夫を行う必要がありました。例年になく長文の問題でしたので、出題者の意図をくみ取り、仮想のタスクをどのような視点や方法論で解決していくかフローを組み立てるのに苦労しました。夢中で書いていましたら丁度最後の行で終わりました。

時間配分は、Ⅱ-1に各30分、Ⅱ-2に1時間でギリギリでした。Ⅲは15分くらい余りましたので、復元論文用に持ち帰りが許されている問題用紙にメモを取ることもできました。文章量は、自分ではやや多めかなと思う程度で書き出していくくらいで丁度良かったです。

記述の結果は、知識・応用(Ⅱ)、課題解決(Ⅲ)ともA評価を戴きました。

<口頭試験対策>

2年目にして、ようやく筆記試験が合格できましたので、口頭試験は是が非でも突破したいという死に物狂いの気持ちでした。受験申し込みの時に、業務経歴や業務詳細は、既に技術士である弟から何度もダメだしを食らって練りに練って完成させたものでしたので、内容的には安心感がありました。

あとは、それをプレゼンする能力と技術者倫理や技術士法などの考えや決まりを如何に上手に試験官に伝えられるかです。それには、場数を踏むことによる慣れしかないと思いました。

私は、スキヤキ塾の口頭模擬試験を3回と大手スクールのセミナーと口頭模擬試験を1回受講しました。市販の口頭試験対策本も購入し、想定問答集を作成するなどして勉強しました。業務経歴や業務詳細は、3分、5分、10分バージョンの説明パターンを用意して練習しました。口頭模擬試験は、録音を許可されたところをスマホで何度も聞いて修正や事前準備に努めました。最後は、妻や娘にも試験官になってもらい、バグだしに勤しみました。妻や娘は、遠慮なく私のしぐさや表情、言葉遣いなどを指摘してくれました。

本当に驚いたのは、各々計4回の口頭模擬試験で質問されて答えに詰まってしまった事柄が、本番で全く同じ質問を受けました。口頭模擬試験で指摘され、事前に回答を用意していましたので、本番が意外にも、最も上手く受け答えができたと思います。

<口頭試験本番>

試験前日の晩は、一睡もできませんでした。当日は、2 時間ほど前に到着し、近くのカラオケボックス店で、1 時間くらい発声練習をしました。控室では、他の受験生が視界に入らないように、一番前の席で待機し、5 分前に面接室の入り口の横にある椅子に腰を掛けました。今までの生涯で一番緊張をしていた時間だったと思います。

口頭試験本番は、試験官は二人で、笑顔で迎え入れてくれました。業務経歴の説明から始まりました。大きくなずきながら聞いてくれましたので、両試験官に対するアイコンタクトにも注意しました。終始和やかな雰囲気の中、特段に考え込むような質問もなく、スムーズに進行し、最後は笑いもありのあっという間に時間が過ぎていった感じでした。

予想に反して一番練習をした業務詳細の説明を求められませんでした。これは、10 年前の古い内容であったためだと思います。

所要時間は、20 分ちょうどでした。

<結果発表>

発表当日の早朝、Web 発表で自分の受験番号を確認できた時は、ホッとしました。

1 次試験から足掛け 3 年かかりました。その間に父と母が亡くなりました。お彼岸には、両親の墓前に報告ができました。走馬燈のように思い出が蘇ってきて泣きました。

<謝辞>

スキヤキ塾の口頭模擬試験でお世話になった APEC 先生、関係各位の先生方に大変感謝しております。この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。

また、励ましのメールで貴重なアドバイスを下さった I 様、本当にありがとうございました。

そして何よりも精神的な支えとなり、健康管理に気を使ってくれた妻、モチベーション維持とリフレッシュに一役買ってくれた子供たちに、心よりありがとうと言わせて下さい。

<さいごに>

これから技術士受験に挑まれる皆様へ

この資格試験は、本当に長丁場です。如何にしてモチベーションを維持していくかがポイントだと思います。絶対に合格してやるという気概が必要です。最後まであきらめずに、あがくことです。精神論になってしまいましたが、自身の人生をかけて戦うんだというくらいの気持ちが大切なのではと思いました。

絶対にあきらめないで、最後まで戦い抜いて下さい。ご健闘をお祈り申し上げます。

以上